

病理診断科卒後臨床研修プログラム

和歌山医科大学附属病院・病理診断科では一人ひとりの研修医の希望を聞きながら研修プログラムを立てています。基本的には、下記のような日常の病理診断、病理解剖、病理スライドカンファレンスや抄読会および臨床科とのカンファレンスを通して、病理診断を体系的かつ論理的に学ぶことを目指しています。

【研修目標】

病理診断学の基礎を学ぶことにより、臨床病理相関を知り、臨床に役立てる。

【行動目標】

- ① 固定法など臓器の取扱いについて学ぶ。
- ② 病変の肉眼的観察法や標本切り出し法を学ぶ。
- ③ 病理組織所見の取り方を学ぶ。
- ④ 病理組織診断を行うための論理的な診断アプローチ法を学ぶ。
- ⑤ 病理細胞診断を行うための論理的な診断アプローチ法を学ぶ。
- ⑥ 病理解剖の基本技術（手技、肉眼観察、切り出し、組織観察、解析法など）を学ぶ。
- ⑦ 病理診断のための様々な手法（特殊染色、免疫組織染色、FISH 法や PCR などの分子病理解析、電子顕微鏡）を学ぶ。
- ⑧ 臨床とのカンファレンスにおける病理プレゼンテーション法を学ぶ。

【研修人数と期間】

病理診断学を一通り学ぶには最低、二ヶ月間の研修が必要と考えています。また、一人ひとりの研修医を丁寧に指導するためには各期間で一名の研修医のみに対応しています。ただし、各研修医の事情を鑑み、柔軟に対応します。

【研修方法】

頻度の高い疾患の組織診や細胞診の病理診断および病理解剖について、自ら病理診断を行い、それに対して病理専門医の経験が8年目以上の病理医が一例一例について一対一の指導を行います。また、臨床とのカンファレンスにおいて、研修医自ら症例提示をしていただきます。

【カンファレンス・勉強会】

- ① コンセンサス・ミーティング（毎日）
- ② 病理解剖マクロカンファレンス（毎週）
- ③ CTTR 若手病理医勉強会（毎週）
- ④ 病理診断抄読会（毎週）
- ⑤ 各臨床科とのカンファレンス（各科ごとに定期的）
- ⑥ 病理解剖の臨床病理カンファレンス（CPC）（不定期）
- ⑦ 研究検討会（毎週）